

## 行仙宿行者堂の役行者像修復のお性根抜き供養

◇実施日：平成28年07月04日(月) 晴

◇参加者：熊野修験：高木亮英、高木智英、阪本修一、生熊青瀧。

浅村朋伸・仏師(奈良市)

玉岡憲明・明、山上皓一郎、川島 功、生熊敏男、

児嶋道夫、濱野兼吉、大江加予子、畑林秀味・清子、

青木宏充、梶野照雄。12名。

計17名。

先般、熊野修験奥駈修行に参加された方から、行仙宿行者堂の役行者像修復必要を指摘されたことから、奈良市在住の浅村朋伸・仏師(園城寺伝統技法教習院で修行後に独立)に修復検分をして頂き、その報告を受け世話人(玉岡、山上、川島、沖崎)で協議して、応急処置で無く、降ろして修復することを決めました。

役行者像のお性抜きは、山上氏の計らいで、青岸渡寺・高木亮英師に相談の結果、快諾を頂き熊野修験(高木亮英・大導師、高木智英、阪本修一、生熊青瀧師)で執り行われることになりました。週間予報と異なり、梅雨明けの気圧配置になり絶好の天気にも恵まれました。

熊野修験の方達とは、宮井大橋を渡った広い路側帯で7時に合流する事になり、7時少し前に到着すると、後続車は高木亮英師の車(生熊氏同乗)であつた。ご子息の智英(大阪)と阪本(堺市)さんは、登山口で合流すること。

車外で簡単な挨拶を済ませると高木亮英師から、「行仙宿行者尊像修復御寄進」祝儀袋(老拾万円)を頂戴する。本来、お礼をすべきは当方なのに・・・有難く拝領した。

8時前に登山口に着くと、熊野修験のお二人は既に待機、前夜行仙宿泊(持経宿で宿泊)と聞いていた青木、梶野氏に迎えられた

が、モノレールは始点に待機してはなく、生熊氏が降ろしに上る。直会・弁当、児嶋氏のソーラーパネルと道具類、各自ザック、背負子を積み生熊・川島が最初に上る。大江、畑林、濱野、児嶋氏は、歩いてモノレール終点へ。2便目は、山上さんの運転で熊野修験の方々、3便目は、浅村仏師と像を降ろす資材を運び上げる為、青木、梶野氏が付き添うことにする。

大江、畑林さんは、第二ベンチへ上る尾根でお堂に供えるシキミを採りながら登られており、川島は追い越し、鉄塔を過ぎた峠手前の木陰で休憩している人を見つめる。

本行事は遠慮すると言われていた玉岡憲明さんと明君で、ビックリすると同時に、御大が立会って頂ける事に有り難い思いになる。玉岡さんは、登山口7時頃からモノレールを使わず登って来られとのこと、御歳92歳まだまだお元気だ。

川島が9時前に先着。尾根筋は涼しい風が吹き、汗が引いてゆき心地が良い。お堂の鍵を開け、宿内の窓を網戸に開放、食事台を出すとカビで白くなっており、雑巾掛けする。

大江、畑林さんが到着し、堂内清掃とシキミとお供えの野菜(胡瓜・茄子・トマト)を三宝に盛って貰う。菓子は山上氏が調達。玉岡さんも到着され、お堂前に幟旗を立てるよう指示がある。



熊野修験一行勢揃い



山上氏先導で熊野修験一行到着



9時10分頃に熊野修験一行が到着され、直ぐに堂内でお性抜き供養の祭壇を整えて頂く。又、お性根抜きする役行者像を手前真ん中寄りに寄せる。



お性根抜きの祭壇準備

大先達・高木亮英導師

お性根抜き供養

仏師の浅村氏も到着され、9時半より、大先達・高木亮英導師に、お性根抜きの読経勤行が、法螺の音を合図に執行される。



お性根抜き供養

御参りする山彦ぐるーぷ会友

しめやかに厳かな中に般若心経が3回唱えられ、10時に終了。高木大導師からお性根抜き後のご挨拶がある。宿内で簡便な直会弁当を食べながら歓談する予定でしたが、高木亮英師は、午後

から仕事・来客等があり、どうしても下山されるとの事。

行者堂の前で玉岡相談役の行者像のいきさつ等のご挨拶があり、川島は、業務多忙の中、お性根抜き供養に来宿来堂下さった御礼と浅村仏師への修復依頼経緯と簡単な紹介をする。

浅村仏師からは、思いもしない人と人のつながりにより修復の依頼を受け、平行した仕事の中ですが、精一杯修復致しますとご挨拶がありました。



大導師の挨拶

玉岡・川島・浅村氏挨拶

挨拶拝聴



記念撮影

お性根抜き役行者像

尊像修復宜しく!

記念撮影後、熊野修験一行は、弁当を持って下山され事になり、

お布施の名目で足代を手渡し、梶野氏がモノレールを運転して登山口まで送って貰う。

修復する役行者像は、外れた箇所、外れる部材を一品ずつ丁寧に梱包され、浅村氏にお1人にお任せする。

児嶋氏は、現在のソーラーパネル(40W)では、五月の連休等天候によって、充電不足となる事から、100Wのソーラーパネルを梶野氏加工のアルミアングル台にて、取替を生熊氏等と作業される。

梶野氏が熊野修験一行を送って戻られたので、各自作業を中断して直会弁当(千円)の昼食とする。尚、浅村氏は行者堂にて梱包を続けられた。

インスタント味噌汁は、もはらクリニックから寄贈頂いたものを使用した。この味噌汁は、7月1日に玉岡さん宅に、医療法人やまびこ会・腎循環器もはらクリニックの茂原 治院長(名誉会友)が、上富田クリニックを退任し、新たに勤労者向け(夜間診療)のクリニックを大阪・心斎橋近くに、11月頃に開院するとの挨拶にいられた折に、1斗缶5個と多くのインスタント味噌汁を寄贈して頂いたものです。

昼食後、尊像荷降ろしの梱包も終り、山上、大江、畑林さん達で尊像の配置替えと堂内を清掃される。



役行者像部材梱包

100W ソーラーパネル

下山・モノレール始点で

又、堂内尊像が、万が一盗難にあった時は、盗難届けの際に写真提供出来る様に、玉岡明君が正面、横、正面裏、下からと各尊像の写真撮影して頂いた。

川島は、行仙宿と行者堂内に、塩川正十郎先生(山上氏撮影提供)の頭影額を掲額した。

梱包仏像をモノレールで降ろす事から13時半前に、浅村、青木、濱野、梶野氏が最初に下山。最後に川島、玉岡さん親子が行仙宿を下山。大江、畑林、児嶋氏は、ザックを担いで下山する。

2便目に玉岡さんが間に合えば待つ様に運転の生熊氏にお願いし、畑林秀氏が上る際に、登山口水場の水を汲んで登って来られたので、水場に据え置く空のポリタンを持って川島は下山。

登山口に下りて程なく、生熊さんと一緒に玉岡、山上さんもモノレールで下山され、14時半前に全員が下山する。

浅村氏は、修復に約3ヶ月の猶予を頂きたいとの事。進捗状況は、時々青木氏に連絡し掲示板でお知らせすることにした。

役行者像は、聖護院から寄贈して頂いた尊像であり、修復後の尊像は聖護院へ持ち運びに見て頂く共にお性根入れをして頂く相談をする所存です。

最後に、熊野修験・高木亮英師様には、業務多忙中にもかかわらず、お性根抜き供養をして頂くと共に多額な行者尊修復御寄進を賜り衷心より御礼申し上げます。

熊野修験がますますご隆昌されます事をご祈念申し上げます、今後共にご支援ご協力を賜ります様をお願い申し上げます次第です。

(記 川島、写真:川島・玉岡明・梶野)

### 行動タイム

新宮 6:25→6:55 宮井大橋 7:00→8:00 登山口 8:15→(先着 8:50)  
後着 9:25)行仙宿→9:30 お性根抜き供養 10:00→作業→11:35 昼食  
12:10→作業→行仙宿 13:35→14:30 登山口 14:50→16:30 新宮。

熊野修験は、9:12 行仙宿着、10:30 下山。